



ナカニワガイ 国道190号線再生計画

竹中 直道 大阪市立大学
山崎 雅文 九州大学
田中 規之 広島大学
石坂 佳美 神奈川大学
倉西 貴子 日本女子大学

歴史的背景

宇部市は大正末期から昭和初期にかけて、石炭産業をベースに、工業の街として発展していきまし
た。
しかしその結果、空気は汚れ、煤塵汚染が問題となりました。
1958年「市民公園を花で埋める会」が発足し、国道190号線を中心に市民運動として、植栽が行わ
れ、市民の方々の努力によって煤塵汚染が解決されたということです。

また1961年、日本初の「野外彫刻展」が開催されました。
宇部市には200基以上の彫刻が配置され、現在は彫刻のまちとして位置づけられています。
現在、国道190号線は5体の彫刻が配置されています。



戦時中の宇部

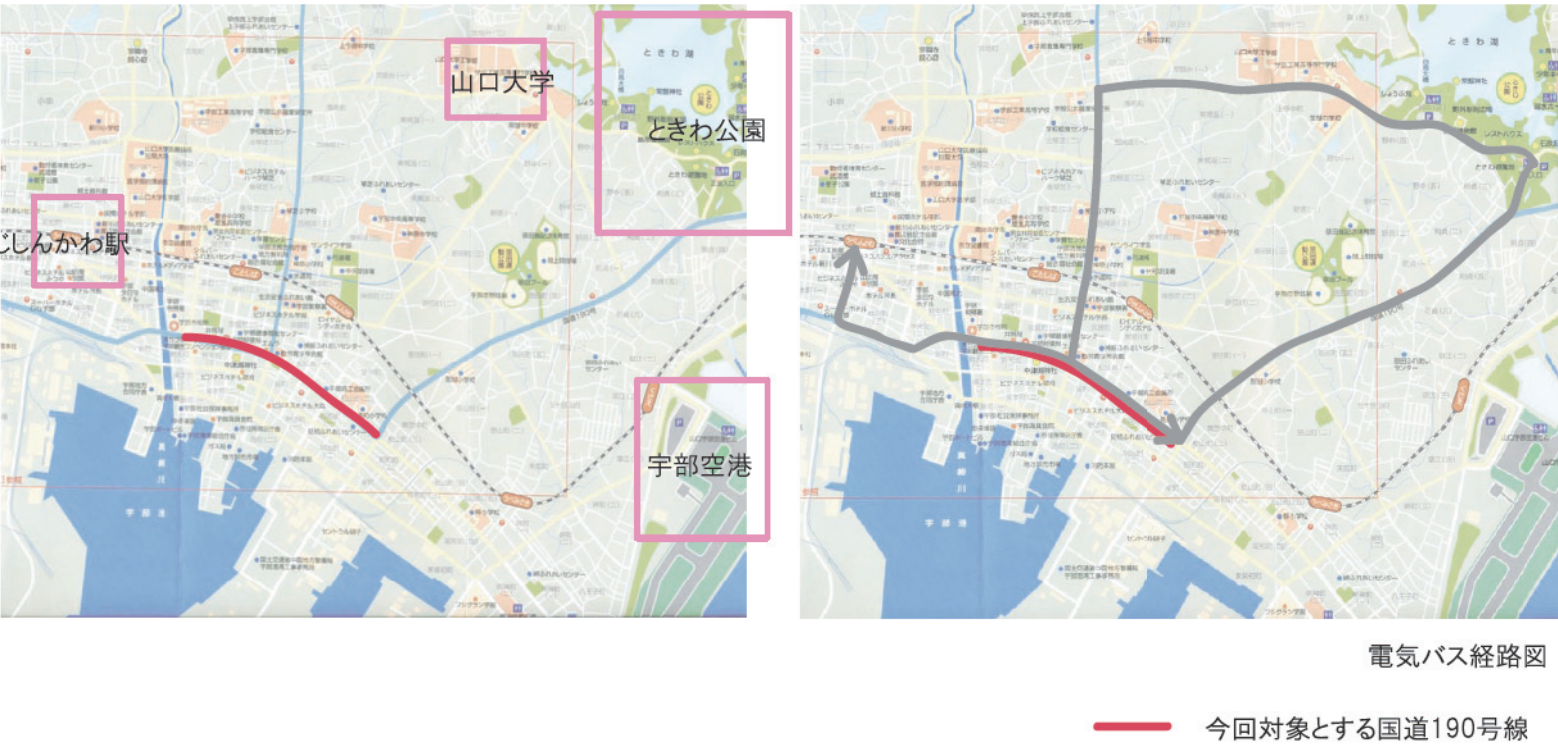


国道190号に設置されている彫刻の一部

宇部市の中の国道の位置づけ 車の道から人の道へ

国道190号線は、うべしんかわ駅と宇部空港への重要な道となっています。
また、今回新たに提案される電気バスの経路にも指定されていることなどから、シンボルロード
にも勝るほど、宇部市にとって重要な役割を果たしていると言えます。

また、都市が掲げている『エコ&アート』という計画から、国道190号線は人が集まるきっかけ
を作り、道路沿いの商店も活性化されると考え、車の道から人の道へシフトさせようと考えまし
た。

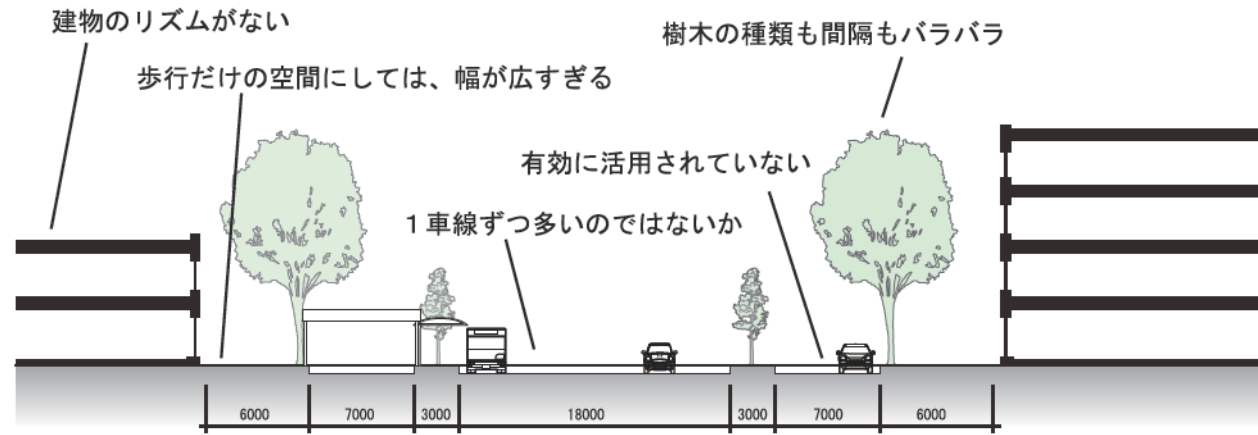


電気バス経路図

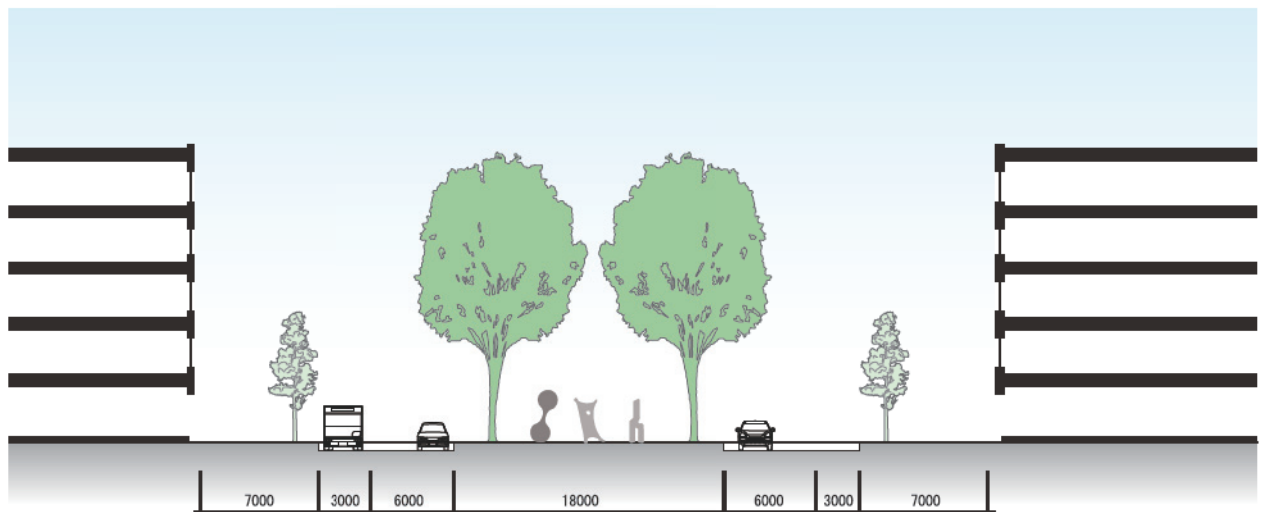
今回対象とする国道190号線

現在の国道190号線の状況 IZUTU前

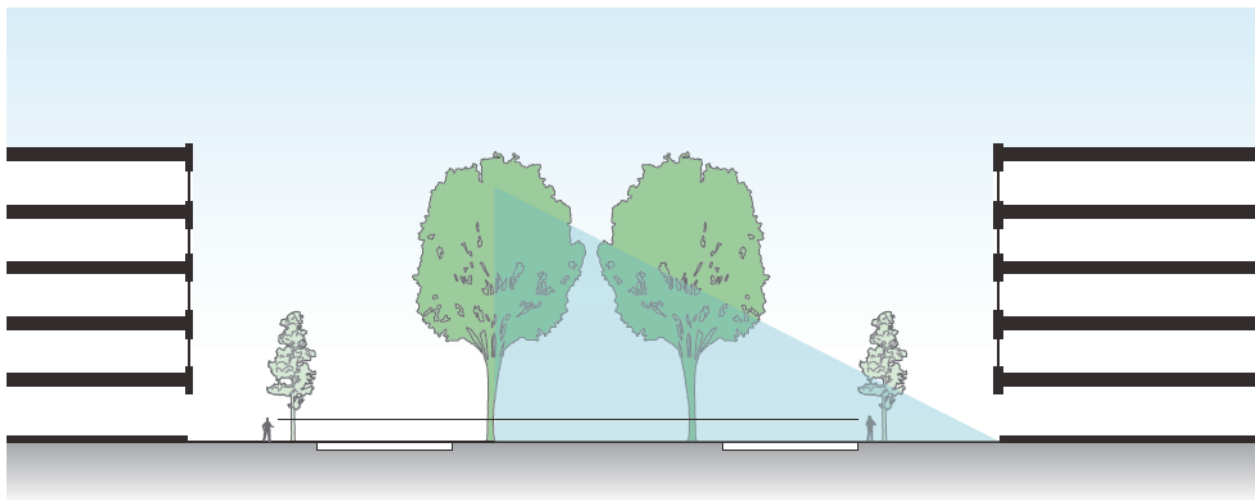
現在の状況を考察した結果このような意見が出ました



提案後



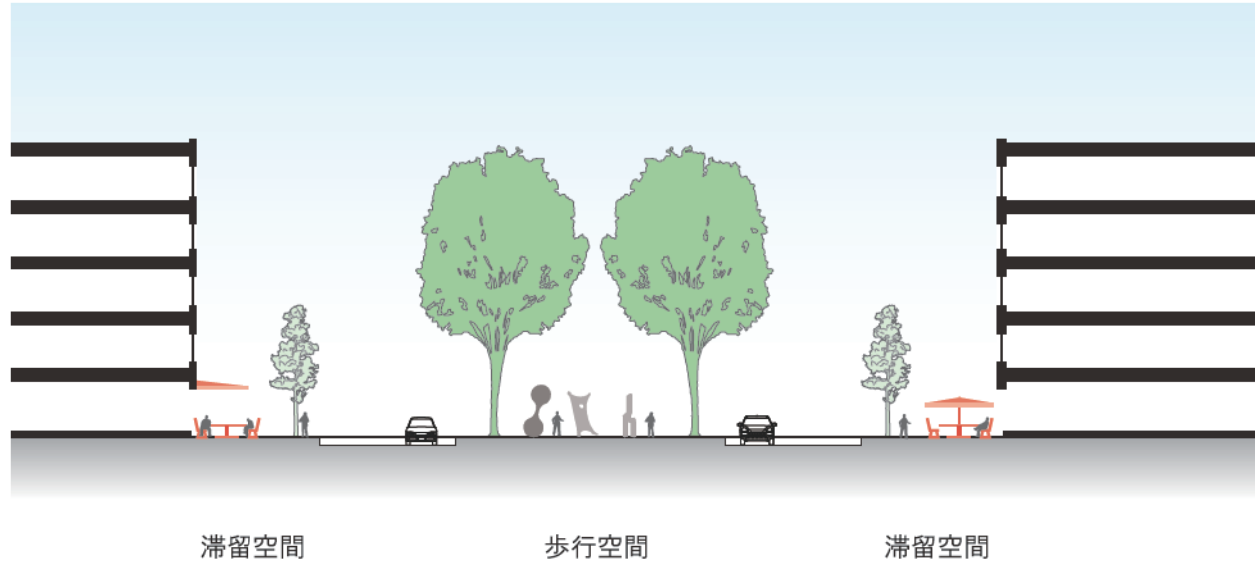
有効的に活用されていない4車線を歩道として転換する



植樹計画

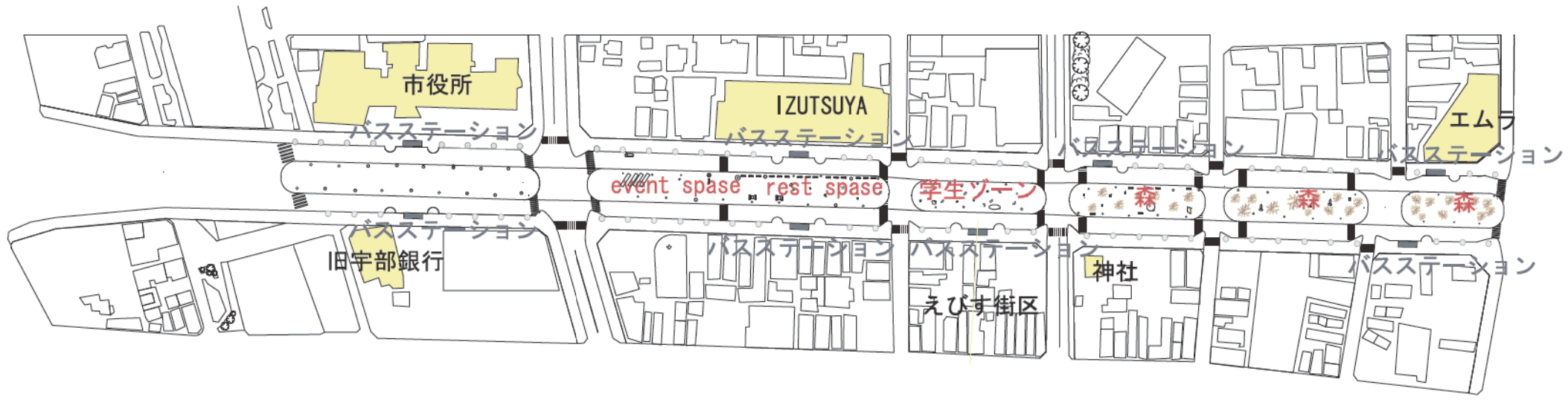
クスノキとハナミズキを図のように配置させることによって
・だだっ広い通りを引きしめる
・枝の部分は1階のみとなり、視線が通りやすくなる
・お互いの葉の間隔により、2階以上に視線を向けにくくなる
という作用を生み出す

	クスノキ 宇部市の市木	ハナミズキ 宇部市の市花
高さ	15~25m	高さ 6m~8m
葉張り	9m	葉張り 2~3m



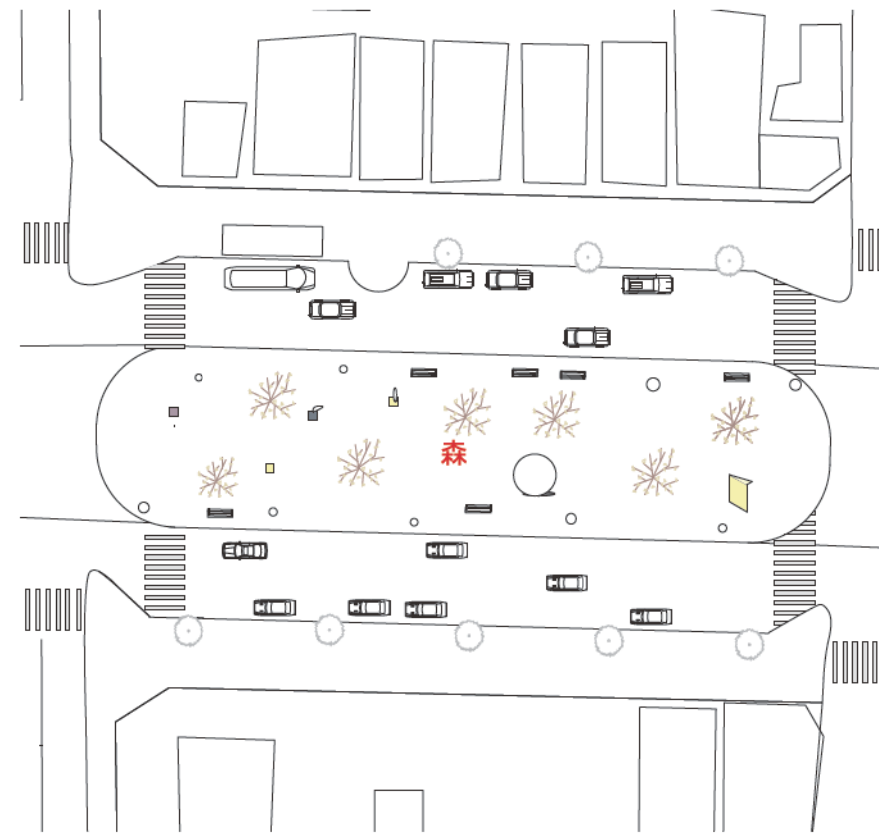
歩道スペースと中央スペースの違い

滞留空間では、店舗の行為が外部へはみ出す
歩行空間は、通常は歩行空間として使用され、歩きながら公園要素や、彫刻を楽しむ
また、イベント時には各種パフォーマンスや展示を行う



配置計画

・主要スポット(コミュニティスポット。中心となる商店街)にバス停を配置し、ステーションがコミュニティ活性化の要素を持たせる
・中央スペースもまた、主要スポットからの延長として使われる要素を持たせた
・横断歩道は中央スペースに行き渡りやすいように再配置した



路上駐車・ステーション計画

今まで2車線必要としていたが、路上駐車とバスステーションの
間を膨らませることによって、1つの車線で分断することができる
現在の路上駐車スペース60台分は確保済みである

以上のことから、
宇部(国道190号線)は緑豊か・彫刻の町だと認識させ、車の道から人のみちへとシフトさせる